

エコアクション21

環境経営レポート

脇谷産業株式会社



2023年度

運用期間 2023年 8月 1日 ~ 2024年7月31日

2024年8月31日 発行

【 目 次 】

項目No	項 目 名	レポートの 要求No	ページ
	表 紙	—	1
	目 次	—	2
1	組織の概要及び対象範囲	①②	3
	1) 事業者名及び代表者名 2) 所在地 3) 環境管理責任者及び事務局及び連絡先 4) 事業創立年月日 5) 事業活動の内容 6) 事業規模 7) 推進組織図 8) 対象範囲		
2	環境経営方針	③	4
3	環境経営目標	④	5
4	環境経営目標の実績	⑥	6
5	環境経営計画と取組結果とその評価	⑤⑥ ⑦	7
6	次年度の環境経営計画	⑦	8
6－2	次年度の環境経営目標〔詳細〕	⑦	8－2
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	⑧	9
8	代表者による全体評価と見直しの結果	⑨	9

※レポートの要求Noとは、建設業者向けガイドライン・環境活動レポートのレポート作成の番号①～⑨のこと。

1. 組織の概要及び対象範囲

1) 事業者名及び代表者名

協谷産業株式会社
代表取締役 秋月 芳久

2) 所在地

本社事務所 〒880-0211 宮崎県宮崎市佐土原町下田島6856-1
資材置場 〒880-0211 宮崎県宮崎市佐土原町下田島6947-1

3) 環境管理責任者及び事務局、担当者氏名・連絡先

EA-21 責任者 原田 寛志
EA-21 事務局 総務 大日 泉

連絡担当者 原田 寛志
TEL 090-1680-5982
E-mail wakitani-harada@outlook.jp

4) 事業創立年月日

1967年 10月 1日〔創立から56年〕

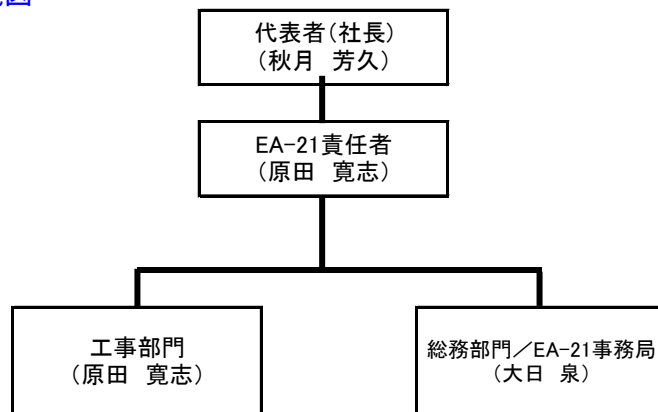
5) 事業活動の内容

建設業(土木工事業、とび・土工事業、石工事業、管工事業、鋼構造物工事業、
舗装工事業、塗装工事業、水道施設工事業、解体工事業)

6) 事業規模

項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
工事件数	件	24	12	12	6
従業員数	人	10	10	10	10
床面積	m ²	122	122	122	122
敷地面積	m ²	405.6	405.6	1250	1250

7) 推進組織図



8) 対象範囲 (全組織・全活動)

組織・・・ 本社事務所、資材置場
活動・・・ (5)事業活動の内容全て
レポート対象期間 表紙に掲載
レポート発行日 表紙に掲載

2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

私たちは、事業活動が与える環境問題をしっかりと認識し、人と自然が調和した豊かな社会環境づくりを目指し、積極的に地球環境保全に取り組み、循環型社会の構築に努め、持続可能な社会の実現に貢献できるように取り組みます。

1. 当社は、建設工事の事業活動を通じて、環境経営マネジメントシステムを構築し、環境経営目標・環境経営活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
2. 事業活動に関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体地域の要請に協力します。
3. 当社の事業活動に於いて、環境に与える影響を削減するために、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ① 化石燃料、電気使用量の節減による、二酸化炭素排出量の削減。
 - ② 事業活動工程から排出される廃棄物の削減とリサイクル推進。
 - ③ 節水活動による水使用量の削減。
4. 事務所等でエコ商品並びに再生紙等を積極的に使用する。
5. 省エネ・省資源型の建設機械の積極的使用を推進します。
6. 次世代の建設業を担う人材育成の推進に努めます。
7. 環境保全に関する啓蒙・啓発と、地域での社会貢献活動に努めます。

この環境経営方針は、当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2023年 10月21日改定
2021年 7月15日制定
協谷産業株式会社
代表取締役 秋月 芳久

3. 環境経営目標

当社の第一次中期(2021～2023年度)の環境経営目標は、環境負荷の調査により、2020年度(2020年8月～2021年7月)のデータを基準値として設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	年 度 別 環 境 目 標					
			基準値 2020、2021年度 の実績から決定	2021年度 (2021年8月～ 2022年7月)	2022年度 (2022年8月～ 2023年7月)	2023年度 (2023年8月～ 2024年7月)		
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)		事務所	6,208.8	6,146.7	6,115.6	6,084.6		
		現場	139,890.5	138,491.6	137,792.2	137,092.7		
		全社	146,099.3	144,638.3	143,907.8	143,177.3		
省エネ ルギ ー 項 目	①電気使用量の削減 (kWh)		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
			事務所	4,663.1	4,616.5	4,593.2	4,569.8	
			現場	8,730.4	8,643.1	8,599.4	8,555.8	
	②ガソリン使用量の削減 (L)		全社	13,393.5	13,259.6	13,192.6	13,125.6	
			*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
			事務所	1,930.5	1,911.2	1,901.5	1,891.9	
	③軽油使用量の削減 (L)		現場	8,819.4	8,731.2	8,687.1	8,643.0	
			全社	10,749.9	10,642.4	10,588.7	10,534.9	
			*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
	①. 一般廃棄物の削減 (kg)		事務所	0.0	0.0	0.0	0.0	
			現場	45,035.1	44,584.7	44,359.6	44,134.4	
			全社	45,035.1	44,584.7	44,359.6	44,134.4	
	2 廃棄物の削減	②. 建設副産物再資源化率の向上		*削減率%⇒			1.5	2.0
				全社	2021年度実績	分別・計量で実績把握	211.3	210.2
			214.5	(214.5kg)				
		現場	406.1トン [99.3%]	環境経営計画を遵守し、 再資源化率を向上させる(95%以上)				
3. 水資源使用量の削減 (m ³)		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0		
		事務所	229.0	226.7	225.6	224.4		
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0		
		全社	229.0	226.7	225.6	224.4		
4 有益な環境活動	4-1. 環境配慮型施工の推進 (現場周辺に配慮して 創意工夫した事を含む)	全社	現場周辺に 配慮した活動	環境経営活動 計画の遵守	環境経営活動 計画の遵守	環境経営活動 計画の遵守		
	4-2. 環境保全活動の推進 (ボランティア活動)	全社	3回	3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年		

- *2021.5.15 作成要点 ・2020年度の実績を基準値として、削減率を1.0% 1.5% 2.0%として3ヶ年の目標値を設定した。
 ・全社CO₂排出量は、電気以外は2017年版環境への負荷チェックと同値の排出係数で算出した。
 ・電気のCO₂排出係数は、2021年(令和3年)1.7 環境省公表・九州電力調整後のメニューBの係数を採用。
- *2022.9.1 作成要点 ・2021年度の実績と2022年度以降の伸びを想定し、基準値の見直しを行った。
 ・2021年度の一般廃棄物量を把握したので、2022,2023年の目標値を設定した。

※化学物質(PRTR制度対象物質)は使用していません。

※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した (排出量(kg-CO₂) = 使用量(A) × 排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)
購入電力	kWh		0.371 (kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン	L		2.32 (kg-CO ₂ /L)
軽油	L		2.58 (kg-CO ₂ /L)

4. 環境経営目標の実績

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。

実績値は、2023年度期間(2023年8月～2024年7月)の12ヶ月間と、目標値は基準年度2020年度の同期間の削減率から算出した合計の値と比較する。

取 組 項 目		2023年度目標値 (2023年8月～ 2024年7月)	2023年度 実績 (2023年8月～ 2024年7月)	達成率	判定	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	全社	143,177.3	76,661.1	186.8%	○	
		*現場の灯油を含む総排出量 76,710.9 kg-CO2				
	①電気使用量の 削減 2. 0% (kWh)	事務所	4,569.8	2,919.0	156.6%	○
		現場	8,555.8	3,357.0	254.9%	○
		全社	13,125.6	6,276.0	209.1%	○
	②ガソリン使用量の 削減 2. 0% (L)	事務所	1,891.9	1,441.7	131.2%	○
		現場	8,643.0	6,599.0	131.0%	○
		全社	10,534.9	8,040.7	131.0%	○
	③軽油使用量の 削減 2. 0% (L)	事務所	0.0	0.0	－	○
		現場	44,134.4	21,580.7	204.5%	○
		全社	44,134.4	21,580.7	204.5%	○
2. 廃棄物の削減 ①一般廃棄物の廃棄量の把握 (kg) ②建設副産物の再資源化率 の向上	①全社	210.2	57.0	368.8%	○	
	②現場	環境経営計画を遵守 し再資源化率95%以上	遵守 (総排出 86.0 t 再資源化率 100%)	105.3%	○	
3. 水資源使用量の削減 2.0%% (m ³)	全社	224.4	44.0	510.0%	○	
4-①環境配慮型施工の推進	全社	環境経営計画 の遵守	遵守しました	－	○	
4-②環境保全の取組推進 (ボランティア活動)	全社	3回以上／年	4回	133.3%	○	

※ 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の調整後のメニューBの排出係数0.371(kg-CO₂/kWh)を使用しました。

※ 達成率は、項目1～3が、目標/実績 100%以上が評価○で、項目4～が、実績/目標で100%以上が、評価○とする。

5、環境経営計画と取組結果とその評価

2023年8月1日から～2024年7月31日までの環境経営計画と取組結果は以下の状況です。
〔実施スケジュールの年間とは、8月～翌年7月までとする。〕

臨時期間の環境経営計画				取組結果と評価	
取組項目と活動内容		実施区	実施スケジュール	取組結果	評価
1・二酸化炭素排出量の削減	【電気使用量の削減】 ①不在箇所、不要箇所及び昼休みは消灯している。 ②パソコン、コピー機等のOA機器は省電力設定に設定している。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	①不在時や、不要箇所及び昼休みは消灯にした。	○
				②OA機器等は省電力に設定した。	○
	【ガソリン使用量の削減】 ①現場への相乗りを推進している。 ②コンプレッサーや発電機など、仕様しない時はこまめにエンジンをストップさせている。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	①現場への相乗りを実施し、車両台数を減らした。	○
				②実施できている。使用時も、最小限の使用にしている。	○
	【軽油使用量の削減】 ①運搬計画や経路を見直し、エネルギー消費の少ない運搬を検討する。 ②作業規模や工程に応じた建設機械等の種類や規格を用いてエネルギーの消費を抑えている。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	①最短距離の走路を選んだり、急発進・急加速の操作をしないようにした。	○
				②建設機械等を選定し、エネルギーの消費を抑えた。	○
2・廃棄物の削減	【2-1 一般廃棄物の削減】 ①コピーは裏紙使用・両面コピー・縮小・集約コピーに努める。 ②再利用又はリサイクルし易い製品を優先的に購入する。 ③資源物を再生利用できるように分別している（最終処分量の削減をめざす）	総務部門 工事部門	①年間 ②年間 ③年間	①意識して実施している。	○
				②詰め替えできるものを優先的に購入し、実施している。	○
				③分別を意識してできている。	○
	【2-2 建設副産物の再資源化率向上】 ①建設資材発注時は仕様書を再チェックして在庫の確認を行い、残余資材の発生を抑制する。 ②現場で発生する混合廃棄物は、できるだけ分別してリユース、リサイクルする（廃棄ボックスの数に留意する）	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	①資材置場整理して、在庫に有るものから使用して、残余資材等が出ないようにしている。	○
				②分別してリサイクルできている。	○
3 水 使用 量	【水資源使用量の削減】 ①水道配管からの漏水を定期的に点検する（全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する） ②車両や建設機械の洗車は、必要最小限にとどめ、出来るだけ雨水を利用する。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	①月に1度点検し、漏水がないことを確認している。	○
				②作業終了後に清掃を実施して、できるだけ、洗車をしないようにしている。	○
4 ・ 環 境 改 善 活 動	【4-1 環境保全の取組推進(ボランティア活動)】 ①現場付近や事務所周辺は、常に整理整頓に努める ②地域や業界、団体等の環境ボランティア情報を把握し、積極的に参加する	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	①会社付近の道路草刈り、清掃を進んで行った。現場付近については常に整理整頓に努めた。	○
				②地域や業界からの依頼等には積極的に参加しました。	○
	【4-2 環境配慮型の取組推進】 ①環境配慮型の建設機械を使用する（排ガス対策、低騒音型、低振動型、エコ操作型等） ②できるだけ地産地消の考え方から資材を選択する。 ③環境に関する研究会、講習会への参加による施工技術等の向上	総務部門 工事部門	①年間 ②年間 ③年間	①排対型及び低騒音機械等を使用して、環境に配慮した施工を行った。	○
				②資材はできるだけ現場から近い業者から購入しました。	○
				③水辺の工法の講習に参加した。	○

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2024年度)の環境経営計画は、下記の通り取組めます。
また、次年度の環境経営目標は、次の8-2に詳細を掲示しました。

次年度の環境経営計画				次年度の 環境目標
取組項目と活動内容		実施区	実施 スケジュール	
1・二酸化炭素排出量の削減	【電気使用量の削減】 ①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯している。 ②ブラインドやカーテン、植栽(緑のカーテン)等により、熱の出入りを調整している。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	当レポートの次の8の2ページに環境経営目標(2024年度)を掲載します
	【ガソリン使用量の削減】 ①エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ぶかしの防止等)を徹底する。 ②現場への相乗りを推進している。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	
	【軽油使用量の削減】 ①作業規模や工程に応じた建設機械等の種類や規格を用いてエネルギーの消費を抑えている。 ②施工方法や作業方法の見直しでエネルギーの消費削減を図っている。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	
2・廃棄物の削減	【2-1 一般廃棄物の削減】 ①資源物を再生利用できるように分別している(最終処分量の削減を目指す) ②再利用又はリサイクルしやすい製品を優先的に購入する。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	
	【2-2 建設副産物の再資源化率向上】 ①建設資材発注時は仕様書を再チェックして在庫の確認を行い、残余資材の発生を抑制する。 ②廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼する。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	
3 水 使用 量	【水資源使用量の削減】 ①水道配管からの漏水を定期的に点検する(全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する) ②蛇口にはストッパーを取り付けて不要な水は出さないようにしている。	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	
4 ・ 環 境 改 善 活 動	【4-1 環境保全の取組推進(ボランティア活動)】 ①現場での地域住民への説明会で、現場特有の環境問題と対策も説明する ②地域や業界、団体等の環境ボランティア情報を把握し、積極的に参加する	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	
	【4-2 環境配慮型の取組推進】 ①環境配慮型の建設機械を使用する(排ガス対策、低騒音型、低振動型、エコ操作型等) ②現場の環境上の緊急事態を想定し予防措置を行い、対応手順を作成して事前の訓練を行う ③環境に関する研究会、講習会への参加による施工技術等の向上	総務部門 工事部門	①年間 ②年間	

※ 活動内容は、不具合が生じたら期間の途中でも見直しがあります。

6-2. 次年度の環境経営目標

当社の第二次中期(2024～2026年度)の環境経営目標は、環境負荷の調査により、2021～2023年度の実績平均をを基準値として設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実 施 区	年 度 別 環 境 目 標				
			基準値 2021～2023年度 の実績平均	2024年度 (2024年8月～ 2025年7月)	2025年度 (2025年8月～ 2026年7月)	2026年度 (2026年8月～ 2027年7月)	
省エネ ルギー 項目	1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	事務所	4,916.1	4,866.9	4,842.3	4,817.7	
		現場	81,165.9	80,354.2	79,948.4	79,542.6	
		全社	86,082.0	85,221.1	84,790.7	84,360.3	
	①電気使用量の削減 (kWh)	*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
		事務所	3,342.7	3,309.2	3,292.6	3,275.8	
		現場	4,702.9	4,655.9	4,632.4	4,608.8	
		全社	8,045.6	7,965.1	7,925.0	7,884.6	
		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
		②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	1,434.6	1,420.3	1,413.1	1,405.9
	現場		6,721.8	6,654.6	6,621.0	6,587.4	
	全社		8,156.4	8,074.9	8,034.1	7,993.3	
		*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0	
		③軽油使用量の削減 (L)	事務所	0.0	0.0	0.0	0.0
			現場	24,549.4	24,303.9	24,181.2	24,058.4
	全社		24,549.4	24,303.9	24,181.2	24,058.4	
2 廃棄物 の 削 減	*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0		
	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	全社	90.7	89.8	89.3	88.9	
	②. 建設副産物再資源化率 の向上		現場	547.5 トン [99.6%]	環境経営計画を遵守し、 再資源化率を向上させる(95%以上)		
3. 水資源使用量の削減 (m ³)	*削減率%⇒		1.0	1.5	2.0		
		事務所	109.0	107.9	107.4	106.8	
		現場	0.0	0.0	0.0	0.0	
		全社	109.0	107.9	107.4	106.8	
4 有 益 な 環 境	4-1. 環境配慮型施工の推進 (現場周辺に配慮して 創意工夫した事を含む)	全社	現場周辺に 配慮した活動	環境経営活動 計画の遵守	環境経営活動 計画の遵守	環境経営活動 計画の遵守	
	4-2. 環境保全活動の推進 (ボランティア活動)	全社	3回	3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年	

*2024.9.1 作成要点 ・2021～2023年度の実績平均を基準値として、削減率を1.0% 1.5% 2.0%として3ヶ年の目標値を設定した。
・全社CO2排出量は、電気以外は2017年版環境への負荷チェックと同値の排出係数で算出した。
・電気のCO2排出係数は、2023年(令和5年).12.22 環境省公表・九州電力調整後のメニューBの係数を採用。
・一般廃棄物の管理対象を可燃ごみと不燃ごみとし、資源ごみは廃棄量は把握のみとした。

※化学物質(PRTR制度対象物質)は使用していません。
※二酸化炭素排出量は下記の係数に基づき設定した (排出量(kg-CO₂) = 使用量(A)×排出係数(B))

	単位	使用量(A)	排出係数 (B)	
購入電力	kWh		0.475	(kg-CO ₂ /kWh)
ガソリン	L		2.32	(kg-CO ₂ /L)
軽油	L		2.58	(kg-CO ₂ /L)

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業に係る主な環境関連法規は、担当者が定期的にWeb（環境省ホームページの環境基準・法令室）の改定履歴や建設業協会等からのお知らせ等から年次の運用開始時に見直しと取り纏めを行っています。

尚、違反及び監督官庁からの指摘も、地域住民からの訴訟もありませんでした。

環境関連法規の遵守状況の確認と評価は、3ヶ月に1回実施し、「環境関連法規の取り纏め(兼)遵守評価表」に記述している。現場での遵守状況は、月1回の安全ハットロールや会議棟を通じて常に確認しています。

〔当社の主な環境関連法規と遵守状況は下記の通りです。〕

主な関連法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法(廃掃法)	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化により得られた資材の使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (建設機械搭載のエアコンを含む) [事務所エアコンが対象]	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	遵守 該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	遵守 該当工事なし

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価と指示(○当年度の評価、●次年度への指示)
①環境経営計画の実施状況と 環境経営目標の達成状況	○当年度の環境経営計画の実施状況は、環境経営計画(兼)実施状況管理表によると、活動内容は年間を通しての取り組みは、実施できているが、ガソリン・軽油の使用量が増加傾向にある。改善できるところがあれば、改善し使用量を減らすよう努力してもらいたい。 ●次年度(2024)は活動内容を広げて意識して取り組むよう、更に周知し実施していただきたい。 *-----* ○環境経営目標達成状況は、年間を通して概ね達成できた。工事内容によっては増加傾向にある月も出てくるが、環境に配慮した取り組みを実施して、前年度に比べ使用量を少しでも減らす結果を出せたことは評価する。 ●エコアクション21の取り組みを開始して当年度で第一次が終了した、3年間の結果をふまえ、第二次中期(2024～2026)の新基準値、目標値の設定についてまだまだ削減できる所があるので、目標管理値を達成できない項目は、基準値の見直しも検討して策定すること。また策定後は社員環境教育等で周知すること。
②環境関連法規等の遵守状況	○環境関連法規の取り纏め(兼)遵守評価表で確認した、当社に関連する法規等を全て遵守していることを評価する。 ●今後も遵守の基業務にあたること。
③外部からの環境に関する苦情や要望等	○環境情報記録表で確認した。当年度において、法規制、条例の遵守、苦情及びクレームが無かったことや、ボランティア活動への参加は計画より多く参加したことから評価する。 ●今後も継続し、もし苦情・クレームが発生したら、関係者で速やかに対処し、その結果を社長へ報告すること。
④その他全般について	○エコアクション21を3年間取組んだ結果、少しずつ結果がでている。 ●今後も環境活動を継続し、環境目標、環境経営計画等を見直し、精度の高いものに継続的な改善を図ります。
⑤環境経営方針	○ガイドライン2017年版の要求事項を意識して作成した。 ●今後も現行の方針を継続する。
⑥実施体制	○当初策定した現行体制で特に不具合は無かった。 ●今後も現行体制を継続する。